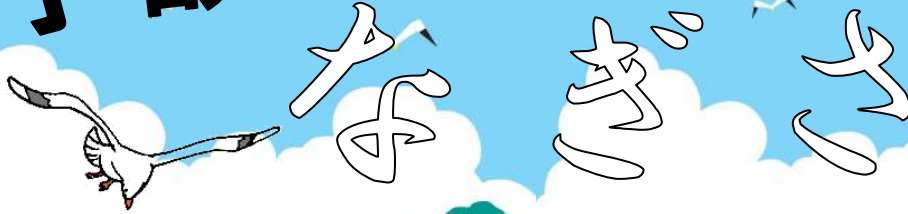


# 小説の中の久里浜



この小説の舞台は久里浜です。山本文緒さんの15年ぶりの長編作をお楽しみ下さい。

**作者：山本文緒**

神奈川県横浜市生まれ

1999年、『恋愛中毒』

第20回吉川英治文学新人賞受賞。

2001年、『プラナリア』

第124回直木賞受賞。

**2013年、『なぎさ』を出版(角川書店)**

『恋愛中毒』以来15年ぶりの長編作



横須賀市南図書館  
榊新一館長  
に本の感想を伺  
いました！

わけ

理由ありで長野県の田舎町から久里浜に移住してきた佐々井夫妻。妻の冬乃と夫の部下である川崎が主人公として入れ代わり、物語は久里浜を舞台に繰り広げられます。

この作品はラブストーリーでもなく、サクセスストーリーでもないのですが、それぞれの家族、恋人、友人との関係性が、時の流れとともに微妙に変化していく、そんな様がとても切なく描かれています。泣ける訳でもなく、笑える訳でもないのですが、読み終わると何故か「頑張らなきゃ！」という気持ちにさせられてしまうのです。今一歩前に踏み出せない方はこの本をぜひ読んでみてください。

また、場面、場面で描写されている久里浜の街が、とてもリアルで身近に感じ、地元の人にとっては“久里浜あるある”もかなり楽しめます。



久里浜行政センター